

二〇二二年度 入学試験問題

国 語

第二回

【注 意】

- ・ 試験時間は五〇分です。（八時五〇分～九時四〇分）
- ・ 問題は一ページから六ページまでです。
- ・ 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- ・ 字数制限のない問題について、一行分の解答らんに二行以上解答してはいけません。
- ・ 記号・句読点がある場合は字数に含みます。
- ・ 解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。



洗足学園中学校

1 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

これから人間同士は、土地や宗教、職業といったものへの帰属によってだけでなく、積極的に関わる活動によって結びついていくことになっていきます。

人間だれもが、かならず帰属している集団や場所があるとすれば、それは人類という大きな集団であり、地球という大きな場所になるでしょう。そして、「人類」と「地球」という大きな帰属集団を土台として、活動によって具体的に多様な人と関わるようになるのです。

逆に言えば、どこかに単に帰属するだけでは、これからはしつかりとした人間関係を形成するには不十分になっていくのです。特定の人生の流れ—— A —、優秀な高校を出て、よい大学の学部を卒業してすぐに大企業や官庁に就職して、そこで長く勤めあげるといった流れだけがよい人生だ、という時代はもうとっくに終わっています。もしかすると、もうそれは「エリート」とさえ呼ばれなくなっています。(1) もっと多様な経験をしたり、多様な人と出会い、さまざまな活動に積極的に取り組んだ人の方が頼りになるのですから。

こうした社会の変化は、心のあり方にも違いを生んでいきます。今の自分が何者であるか、すなわち自己同一性（アイデンティティ）よりも、これから何をするか、その活動を通してこれから何になるかに重きが置かれるようになります。新しい活動を行っていくこと、そうして変わっていくこと、B 「自己変容」に人が関心を持つようになります。

自己変容は、従来は子どもや若者のみの特性だと考えられてきました。しかし、平均寿命が延び、たくさん情報や他者と出会うようになった現代人は、一生変容していく機会に恵まれています。(2) しばしば言われるように、学びも生涯にわたるものとなるのです。

これは人生のサイクルで言えば、子どもの頃に人は学んで、学び終えてから社会で働くという形ばかりがすべてではなくなることを意味します。かつて子ども時代はもっぱら学校に行くように推奨されました。それは、さらに昔に子どもが大人の労働に駆り出されて、学ぶ機会を奪われていたからです。今でも貧しい国ではそうです。それゆえ、子どもを学校のなかで庇護して、十分に成長してから社会に出すという形がとられていました。

C これからは、学校はその(3) 外の社会との結びつきが強くなり、子

30

25

20

15

10

5

どもも学校の外の社会とのつながりの中で学ぶことが増えるでしょう。

その傾向はまず大学に現れています。大学は以前よりもはるかに他の社会との結びつきが強くなりました。国内外の研究機関との連携が強まっているのはもちろんです。企業とも研究開発のジゲンだけでなく、インターンなどキャリア教育を通しての協力関係も強まっています。起業する研究者も多く、今や学生や院生が会社を起すことも珍しくなくなりました。地域創生や持続可能な開発、被災地支援などの目的で、地域社会・地方公共団体・NPOのような非(4) エイリ組織と連携する機会も増えています。また、留学生の数はますます多くなり、多国籍化しています。海外の教育機関と直接に交流する機会も頻繁になりました。そして高校と大学とが協同して教育を行う高大連携も増えました。

大学では、研究、教育、産業、地域交流、ボランティアなどが総合された形での活動が増えています。研究教育も学部や専門の壁を越えた超領域的・分野横断的なものが増えています。先に「横断的・総合的」な学習で触れたように、今や、文系・理系といった区別が意味をなさない研究テーマが増えてきたのです。人工知能や環境問題、地域創生などは典型的にそうした事例です。

(4) 「教養」の意味もかなり変わってきました。以前の大学では一、二学年に教養課程があり、それを修了して専門の勉強をすると考えられてきました。教養は、一般的な事柄について広く浅く学び、常識を身につけること、あるいは、専門に行くための基礎的な知識を身につけること、そのように考えられてきました。

しかし現代では教養の役割は大きく異なっています。教養をつけるとは、単に広い分野の物知りになることではありません。教養とは、現代の狭く(5) サイブンカされすぎている専門性を、より広い視野に立って(6) 俯瞰的・俯瞰的に捉えるための知的態度のことなのです。

現代社会では、職業は専門化しています。私たちは、自分の仕事には専門性があっても、他の分野ではまったくの素人です。そのために、自分が知っている範囲以外では何が行われているかがまるでわからなくなっていますし、視野が狭くなり、どうしても自分の分野や組織のことばかりを意識的・無意識的に優先してしまいがちです。ここから問題が生じてきます。

たとえば、(5) 遺伝子組み換え食品の例を考えてみましょう。現在では、植物の遺伝子を組み換えて、害虫に強いジャガイモや病気に強いイネ、腐敗

60

55

50

45

40

35

しにくいトマトなどが作られています。遺伝子操作で新しい品種の農産物を作るとした場合、それを開発導入しようとする技術者や農業者の利益を推進するだけでは一方的すぎます。多くの人の不満や不安を無視していません。

健康が心配な消費者、新種が受け入れられるかを危惧する農業者、^(E)「セイタイケイ」への悪影響を心配する地元の人々、地域産業の発展を期待している人々など、食品をめぐる利害関係者にはさまざまな人がいます。それらの人たちの関心にも十分に配慮して、その食品の開発と導入を行わなければなりません。そのためには、遺伝子工学だけではなく、農業の仕組み、環境問題、健康や子育てなどさまざまな分野について、まずは思いが及ばなければなりません。さまざまな方面に意識が向けられなければなりません。多様な分野と地域の人々を結び合わせるつなぎ役が必要なのです。

現代社会では、専門性が進んでいるからこそ、ひとつの事柄をさまざまな視点から検討し、他の分野や一般社会と関係づけて考える力が必要とされます。それが教養と呼ばれるものです。D、教養とは、専門教育への単なる準備ではなく、また、ただ広い範囲の物事に浅い知識をもっていることでもありません。教養とは、専門教育を他の分野や一般社会と結びつけるためのもの、専門家を他の分野や一般社会の人々に結びつけるためのものです。

別の言い方をすれば、人々と結びつけ、互いの知識を結びつけていく人間交流の知が教養と呼ばれるようになったのです。したがって現代の教養は、さまざまな分野の人を話し合わせる対話の術を必要とします。私が高書で対話を重視するのもそのためです。

現代社会では、知的活動はますます多様な人と対話することによって進められています。以上に述べたような世界の変化に合わせて、高等学校や中学校での学びも変化していく必要があります。

現在の高校・中学校での教育に求められているのは、以上に述べた意味での教養です。それは大学で勉強するための基礎知識という意味だけではありません。最初に述べたように、これからはAIとインターネットが人間の情報集めと判断の基礎の大きな部分を担ってくれます。調べてわかる知識を覚えることに大きな意味は失われています。大切なのは、自分で探究する課題を見つけ、さまざまな分野の情報と知識を結びつけながら、自分の課題の解決を目指すような態度を身につけることです。探究する意欲

と態度が身につけているかどうか、今後の大学では入学者に求めるようになるでしょう。

私は、世界中のさまざまな研究者に会い、共同で研究をしてきました。いろいろな国籍のたくさんの若手研究者や大学院生を指導してきました。その経験からひとつ言えることは、人と異なった人生経験をしてきた人こそが、面白い視点を持ちえるし、興味深い発想をするということです。テストでよい点を取るためだけに勉強をして、似たような考え方を持った人としか交流してこなかった人は、視野も発想の幅も狭くなり、歳を追うごとに伸び悩むことが多いのです。

人と異なった人生経験をするということは、意欲さえあれば、だれにでも可能なことです。突拍子もない大冒険をする必要はありません。身の回りの、高校生や学生として手の届く範囲のことであっても、あまり人が目を向けていないことに目を向け、自分なりに問題意識をもって何かに取り組めば、その活動が貴重な人生経験となるのです。私に先に「活動が重要」だといったのは、そういうことです。積極的に活動した経験をもった人こそが、これからの社会で生まれ、大きな活躍が期待できる人でしょう。

以上のような社会の変化に「コタえよう」としているのが、「総合的な探究」という科目なのだと思います。探究という科目は、もう一度文部科学省の定義を引けば、「横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していく」ことを目的とするものです。探究を重視する方針は、現在の教育のあり方として正しい方向性であると、私は考えています。

(河野哲也『問う方法・考える方法』)

★インターン………学生が一定期間、企業等で仕事を体験する制度。
★鳥瞰的・俯瞰的に………高いところから見おろすように。

問一——(1)「もつと多様な経験をして、多様な人と出会い、さまざまな活動に積極的に取り組んだ人の方が頼りになる」とありますが、それはなぜですか。解答らんに行以内で説明しなさい。

問二 — (2) 「しばしば言われるように、学びも生涯にわたるものとなるのです。」とありますが、これは現在あるいは将来の学びのあり方を述べたものです。では、かつて学びはどのようなものと考えられていましたか。解答らんに二行以内で説明しなさい。

問三 — (3) 「外の社会との結びつき」とありますが、これについて述べたものとしてふさわしいものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 大学では社会における他の領域との結びつきが強くなり、国内外の研究機関だけでなく、高校など学校間で連携することも増えてきている。

イ 大学では学習や研究活動だけでなく、ボランティアを通して企業と関わり将来のキャリアについて考えることができるようになってきている。

ウ 大学では海外からの留学生が増えて多国籍化しており、海外の教育機関との交流も増えたため日本から留学する必要性がなくなりつつある。

エ 大学では環境問題をはじめとする学部や専門の域を超えた研究が増えたため、企業など異なる領域とも連携するようになってきている。

問四 — (4) 「教養」とありますが、筆者の考える教養とはどのようなものですか。解答らんに五十字以内で説明しなさい。

問五 — (5) 「遺伝子組み換え食品の例」とありますが、この具体例を通して筆者が述べたいことは何ですか。ふさわしいものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 専門化が進む現代において求められるのは、ある事象を多角的な視点でとらえ、専門性の垣根を越えたコミュニティと関連させる力であるということ。

イ 一つの事例を検討するだけでも、消費者、生産者、その周辺地域に住む人々など様々な立場の人がいて、関係するすべての人の希望を受け入れる必要があるということ。

ウ 職業が専門的になるあまり、人々は自分の帰属する分野や組織ばかりに目を向けてしまい、他者の不満や不安を無視してしまうということ。

エ 現代社会では、多様な人と対話することによって立場の異なる他者と交流をもつことができるため、中学校や高等学校でその力を身につけるべきだということ。

問六

A	～	D
---	---	---

 に当てはまる語を次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし記号はそれぞれ一回ずつ使用します。)

ア しかし イ したがって ウ すなわち エ たとえば

問七 — (ア)～(オ)のカタカナを漢字に書き直しなさい。

問八 本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア これから人間同士がしつかりとした人間関係を築くためには、土地や宗教、職業といった自分の帰属する集団に積極的に関わろうとすることが重要である。

イ 現代では「エリート」の価値観が変化しており、優秀な学校に入學し安定した就職先を選ぶこと自体にもはや価値を見出すことはできないとされている。

ウ 研究においては、たくさんの知識を身につけることへの姿勢が重要になるため、今後大学では入学者に探究に対する積極的な意欲と態度を求めるようになると考えられる。

エ 取り立てて珍しい体験をしていなくても、日常の中で自分の身の回りに問題意識を向け、積極的に活動することが社会で活躍するチャンスにつながる。

2 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

夕飯のあと、お姉ちゃんの部屋のドアをノックした。

「詩音^{しおん}だけど、えっと、ききたいことがあって」

「どうぞ」

A ドアを押すと、お姉ちゃんは机^{つくえ}にむかって、本を読んでいた。

髪が頭の形に沿うようにのびて、地肌^{じはだ}はもうすっかり隠れていた。

いつか、テレビで見た女優^{じゅゆう}さんみたいだと思った。

古い映画^{えいが}だったけど、たしかアメリカ海軍¹の、特殊部隊^{とくしゅぶたい}に送りこまれた

女性が主人公^{じゆうじんこう}だった。女性という理由^{りゆう}だけで、拷問^{こうもん}のようなしごきを受け

て、体中^{ていぢゅう}傷だらけになる。それでも、自分の手で坊主^{ぼうず}になって、男性^{だんせい}の訓練^{れんせい}と同じ訓練^{れんせい}にいとみ続ける。

むずかしくて、よくわからないところもあったけど、差別に立ちむかう

女性の姿^{すがた}が、脳裏^{のうり}に焼きついている。

いまこうやって見ると、お姉ちゃん²とあの映画のヒロインが重なって見

えた。

ずいぶんむかしの映画なのに、男女差別はたいして変わっていないのか

もしれない。

詩音は、お姉ちゃんの後頭部^{こうぶ}を見ながら、そんなことを思っていた。

詩音がなかなか話^わしださないの、お姉ちゃんは首^{くび}をひねって詩音を見

た。

「なによ」

「あ、えっと」

不意^{ふい}をつかれてあわてた。

「ジェ、ジェンダーってなんだろうと思って」

「へえ、そんな言葉、どこで聞いたの？」

「友だちが使^{つか}ってた」

いいながら、野島^{のしま}くんは友だちだろうかと思った。

「へーえ、近ごろの小学生^{しょうがくせい}って、あなどれないんだなあ」

お姉ちゃんは、いすのむきを変える、詩音のほうを見て、両手^{りょうて}を頭の

うしろで組^{くみ}んだ。

「うーん、そうね、たとえば、子育ては女性の仕事。男性は外で働いて、

家族を養^{やしや}うって考え方があつてしょ。これは、生まれつきの性別^{せいべつ}じゃなく

30

25

20

15

10

5

て、社会で作られた性別^{せいべつ}なの。この作られた性別で、役割^{やくわり}に男女差^{なんにょさ}をつける、それがジェンダー。こんなのでわかる？」

「うーん」

詩音はうなづいた。いまひとつ、ピンとこない。

「会社^{かいしゃ}で、重要な役職^{やくしやく}は男性、お茶くみとか事務^{じむ}は女性、というのもジェンダー」

「ああ」

「料理^{りょうり}がうまくて、よく気がつく人は女らしい、つらくても、弱音を吐^はかないのが男らしい、ていうのもね。その性差^{せいさ}をなくしていいこうというのが、ジェンダーフリー」

「ふうん。あ、もしかして、お姉ちゃんが坊主にしたのも、そのジェンダー

をなくそうって思ったから？」

「ファッションとか、ヘアスタイルはジェンダーレスっていうらしいけど

ね。それに、わたしは、たんに校則^{こうそく}を変えたくて坊主にしたの。わけのわ

からない校則^{こうそく}にしばられて、高校生活を終わらせたくないからね。でも、

結局^{けつぎゆう}ジェンダーにこだわったことになるのかな」

お姉ちゃんは、そういつて笑^{わら}った。

そっか、さっき見た³見たポスターは、ジェンダーレスを呼びかけていたんだ。

そして野島^{のしま}くんも、詩音がジェンダーフリーを目指^{めざ}していると、思った

のかもしれない。

だけど、詩音はジェンダーフリーも、ジェンダーレスも知らなかった。

詩音が坊主になったのは、お姉ちゃんのすることを応援^{おうえん}したかったから

だ。

前^{まへ}むきな自分^{おのれ}に変わることを、期待^{きたい}したからだ。

「詩音、学校^{がっこう}でいじめられてない？」

いきなり、お姉ちゃんがきいた。

「え？ ううん。だいじょうぶ」

急^{いそ}いで頭^{あたま}を横^{よこ}にふって、笑顔^{えんご}を作^{つく}った。

「坊主はもうやめるんだよ」

「……」

「詩音が坊主になったとき、わたし、すごく怒^{おこ}ったでしょ。でもね、詩音

の気持ち、ほんとはとつてもうれしかった」

「え、ほんとに？」

「え、ほんとに？」

「え、ほんとに？」

60

55

50

45

40

35

「うん。姉妹^{しまい}ってありがたいって思ったよ。気の弱い詩音が、よく坊主になつたなあって」

そうだったのか、と詩音は⁽⁴⁾胸^{むね}のかたまりが、溶^とけていく気がした。

「でもね、詩音が学校でどんな思いをするか、見当^{かんげい}がつくから怒ったの。女子の坊主を歓迎^{かんげい}する学校が、あるとは思えないから」

いたわるような声でいった。

「それにね、パパとママのことを考えるとつらいの。一人でもシヨクなものに、二人となるとね」

そういわれると、⁽⁵⁾詩音の胸もシクツとした。

「とくに、パパの女性観^{じよせいかん}は古いから、心の動揺^{どうよく}も大きいと思うよ」

「でも……お姉ちゃんは……まだ続けるんでしょ」

「わたしのことはいいから、詩音は自分のことを考えなさい。自分がほんとはしたいこと、逆^{さか}にしたくないことを、**B** 考えて、行動にうつしてほしいな」

お姉ちゃんは、真剣^{しんけん}な顔をしていった。

わたしは、お姉ちゃんのすることを支持^{しじ}したい。でもお姉ちゃんは、詩音にそんなことを期待^{きたい}していない。

「ほらほら、もう勉強^{じゆんぎやう}の邪魔^{じゃま}しないで、いった、いった」

お姉ちゃんは詩音の背中^{せなか}を押^おして、**C** たいたいた。

D、詩音は部屋の外へ出た。

⁽⁶⁾自分のしていることが、なんの役にも立っていない気がした。

(朝比奈蓉子『わたしの気になるあの子』)

85

80

75

70

65

問一

——(1)「海軍」とありますが、「海」や「軍事」に関連する語を使った次の一〜五の成句の意味を、後の「意味」ア〜オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

一 井^いの中^{なか}のかわず大海^{たいかい}を知らず

二 勝^{かち}つてかぶとの緒^おをしめよ

三 軍門^{ぐんもん}にくだる

四 船^{ふね}をこぐ

五 渡^{わた}りに船

「意味」

ア いねむりをする。

イ 戦いに負けて相手の言うとおりになる。

ウ 広い世の中のことを知らずに考えがせまい。

エ 都合^{つごう}のいいことにちようど出会う。

オ 成功しても気をゆるめてはいけない。

問二

——(2)「お姉ちゃん」とあの映画のヒロインが重なって見えた。」とありますが、どのような点で重なって見えたのですか。「という点。」に続くように文中から十字以内で抜き出しなさい。

問三

——(3)「さっき見た見たポスターは、ジェンダーレスを呼びかけていたんだ。」とありますが、どのようなポスターだと推測できますか。「ジェンダー」あるいはこれを含む語は用いず、解答らんに二行以内で説明しなさい。

問四

——(4)「胸^{むね}のかたまりが、溶^とけていく気がした。」とありますが、どういうことですか。解答らんに六十字以内で説明しなさい。

問五

——(5)「詩音の胸もシクツとした。」とありますが、このときの詩音の気持ちの説明としてふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 詩音だけでなく、高校生の姉までも坊主になったことで傷ついた両親の心を思い、罪悪感を覚えた。

イ 女子が坊主になることを詩音の学校はまったく歓迎していないと思いきらされ、シヨックで落ちこんだ。

ウ 詩音と姉の二人が坊主になっていて、動揺している両親を思いやり、つらい気持ちになった。

エ 自分の意志で坊主になったのに、両親は誰かに強制されたと誤解したことで、悲しい気持ちになった。

問六

——(6)「自分のしていることが、なんの役にも立っていない気がした。」とありますが、どうして詩音はこのように思うのですか。「自分のしていること」が何かわかるようにしつつ、解答らんに二行以内で説明しなさい。

問七

A ～ D に当てはまる語を次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし記号はそれぞれ一回ずつ使用します。)

ア さちんと イ ポンポンと ウ そつと エ しぶしぶと

問八

本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 詩音の姉が坊主になったのは、自分の学校の校則に納得ができないことが動機であったが、それはジエンダーともかわる事柄であった。

イ 詩音は姉から、ジエンダーレスとはもとの性とはちがう行動や髪形をすることだと教えられ、自分たちの行動がジエンダーレスと関係があると思った。

ウ 詩音が坊主になったのは、姉の影響もあるが、以前にテレビで見た、アメリカ海軍の特殊部隊を描いた映画のヒロインにあこがれたためでもあった。

エ 詩音の姉は、詩音が坊主になったとき怒ったのだが、詩音の気持ちもわかったので、すぐに怒ったことをわび、礼を言った。

